

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

内容
<ul style="list-style-type: none"> ●簡単なシアターゲームでウォーミングアップ。 ●出演俳優たちとのグループトークやミニ作品作りを通して生きていく上で関わっている動物たちのことを考えます。

タイムスケジュール（標準）					
到着	ご挨拶 打ち合わせ	ワークショップ	内休憩	下見・打ち合わせ	退出
※午前 実施例 8時40分	8時40分～9時	9時20分 ～ 11時	5分	11時10分～ 12時10分	12時30分
※午後 実施例 13時	13時～13時20分	13時40分 ～ 15時20分	5分	15時30分～ 16時30分	16時50分
備考	ご担当先生・校長先生 とご挨拶。 ワークショップのための 打ち合わせ。 劇団員の着替え。	授業2コマ分 の時間をいた だいています。		公演のための会場下見 とご担当先生との進行 打ち合わせ。 (約1時間) ※ワークショップ前の時 間帯でも結構です。	

派遣者数
主指導者1名 補助者5名 計6名

学校における事前指導
<ul style="list-style-type: none"> ●参加する児童生徒さんに「自分で呼ばれたい名前」の名札をつけてもらいます。ワークショップが始まる前にガムテープなどにマジックで書いてもらい洋服に貼っておいて下さい。 ●参加する児童生徒さんへのお願いです。飼っている、もしくは飼っていたペットの、写真か絵を描いて持ってきてください。飼った経験がない人はこれから飼いたい動物の写真か絵を。想像上の生き物や絶滅した生き物でもOKです。グループトークで使用します。離れた人からも見えるように、写真などはA4サイズほどに拡大プリント（またはコピー）をお願いします。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	有限会社 劇団銅鑼
公演団体名	有限会社 劇団銅鑼

演目
<p>「いのちの花」 原作：向井愛実著「いのちの花」（株式会社 WAVE 出版刊） 瀧 晴巳著「世界でいちばんかなしい花 それは青森の女子高生たちがペット殺処分ゼロを目指して咲かせた花」（ギャンビット刊） 脚本：畑澤聖悟 演出：齊藤理恵子</p> <p>公演時間（100分）</p>

派遣者数
出演者：10名 スタッフ：11名 合計21名

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8時	8時～13時 ※11時過ぎ出演児童リハーサル (授業1コマ分)	13時30分 ～15時15分	0分	15時30分 ～16時45分	17時

実施校への協力依頼人員
<p>会場の条件によっては、公演当日までにカーテンのない窓を（手の届く範囲で）段ボール等で塞ぐ作業を依頼する場合があります。ピアノがステージ上にあり、袖中に納まらない場合は劇団員と一緒に先生方の手を借りてステージ下におろす作業を依頼する場合があります。会場の床にシートを敷きたいと希望された場合は仕込みの前日までに先生方で敷いていただくようお願いしています。</p> <p>上演中、トイレなどの出入りのため入退場口に先生1～2名の待機をお願いします。 椅子で観劇する場合、仕込み終了後の時間帯で先生・児童生徒に椅子並べの作業のご協力をお願いします。</p>

演目解説

その広い広い大地と空の下、希望に胸を膨らませて動物化学科に入学したマナミたち。糞の匂いにやられながらも家畜たちの世話に励む日々。そして飼育しているニワトリを実習で解体し調理して自分たちで食べる。「いただきます」という言葉の意味を考える。そして東日本大震災——

ある日、見学に訪れた動物愛護センターで、殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る——

自分たちに出来ることはないだろうか？

声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」。

彼女たちは、動物たちの骨を使って花を咲かせ、蘇らせることを思いつく。

名付けて“いのちの花プロジェクト”。

彼女らが咲かせた花を受け取ってくれる人はいるのだろうか？

感動の実話の舞台化。

舞台上に、実際には動物は登場しません。イメージできるように、映像を舞台装置に投影します。

脚本は、高校演劇の第一人者であり、数多くの劇団に話題作を提供し続ける現役高校教師・畑澤聖悟。演出には劇団青年座の新進気鋭の演出家・齊藤理恵子を迎え、疾走する5人の女子高生の物語をお届けします。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

公演ラストシーン近く、高校生たちが客席に向けて“いのちの花”を受け取ってくれる人を探します。そのとき客席から事前ワークショップを経て、舞台上に上がって花を受け取ってもらい、客席に戻って頂きます。よって、出演シーン以外は、客席から観劇していただけます。

児童生徒とのふれあい

公演当日のリハーサルの中で、バックステージツアーも行います。

他に、搬入搬出のお手伝いなどを通じて、俳優・スタッフたちとの交流も出来ます。

終演後に出演者1～2名と座談会も可能。